

東京都における繁華街利用実態調査（平成13年3月）

（大都市消費者の繁華街出向行動の実証分析）

＊ ＊ 調査の主旨 ＊ ＊

数多くの繁華街の分散立地は、巨大都市「東京」の特徴であります。また、商業機能の地域分担が明確であり、消費者が目的に応じていろいろな商業地を利用できるのも東京の魅力であります。「繁華街」は、東京を特徴づける重要な役割を果たしているといえます。

ただ、昨今の繁華街をとりまく環境は、大規模な商業施設開発、新しい交通網の設置などで大きく変化しております。

東京の小売業販売額の大きな割合を占める繁華街の動向は、都内各所の地域商業の経済活動によっても悪くも大きな影響を与えます。このため、今後の都内各市町村の商業のあり方、また地域商店街の将来展望を考える上で、繁華街の動きは無視できません。現時点において消費者の繁華街利用実態（具体的には、繁華街の商圈）を把握しておくことは、地域商業の位置付けを明確にする点できわめて重要であります。

そこで、東京都では今後のまちづくりをはじめとした地域商業活性化のための基礎資料とすることを目的として、消費者の繁華街の利用実態調査を実施いたしました。

＊ ＊ 調査結果のポイント ＊ ＊

- ・ 多摩地域にまで「新宿」の商圈広がる
- ・ 多摩地域では「立川」「吉祥寺」など地元の繁華街も支持を獲得
- ・ 「新宿」「渋谷」「池袋」「銀座」の4強が区部を東西南北にシェア
- ・ 好イメージ繁華街、「銀座」
- ・ 「電車」アクセス、新宿、渋谷、池袋、銀座等の繁華街では7割超
- ・ 渋谷センター街入口の通行量、12時間で11万人強

< 調査概要 >

1. 消費者世帯調査

抽出方法 : 世帯を層化2段階で抽出、調査を実施

配布世帯数 : 都内12,000世帯に対し1世帯につき調査票を複数通(3通)投函

調査方法 : 留置き、自記入後郵送回収

回収数 : 3,087世帯分の6,575票

有効回収数 : 2,964世帯分の6,302票(無効票を除いた有効回収数)

有効回収率 : 24.7%(配布世帯数対回収世帯数)

調査時期 : 平成12年10月

2. 来街者調査

抽出方法 : 街頭での来街者インターセプトによる無作為抽出

調査方法 : 繁華街来街者に対する面接アンケート調査

対象繁華街 : 都内 11 繁華街

1) 新宿、2) 池袋、3) 渋谷、4) 銀座、5) 錦糸町、6) 上野・浅草、
7) 赤羽、8) 吉祥寺、9) 立川、10) 八王子、11) 町田

調査地点数 : 全繁華街合計で 110 地点

回収数 : 総回収数は 17,703 票

調査時期 : 平成 12 年 9 月 ~ 10 月

3. 通行量調査

調査内容 : 特定地点における通行歩行者数の計測

対象地点 : 11 繁華街の街区内で任意に定めた 165 地点

調査時間 : 10 時から 22 時までの 12 時間

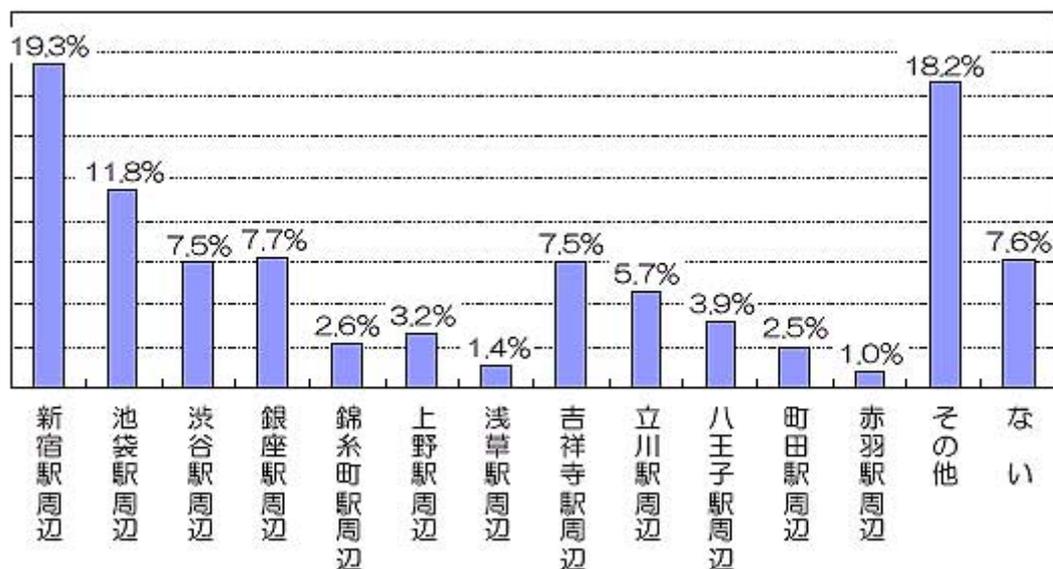
調査時期 : 平成 12 年 9 月 ~ 10 月

< ポイント詳細解説 >

多摩地域にまで「新宿」の商圈広がる

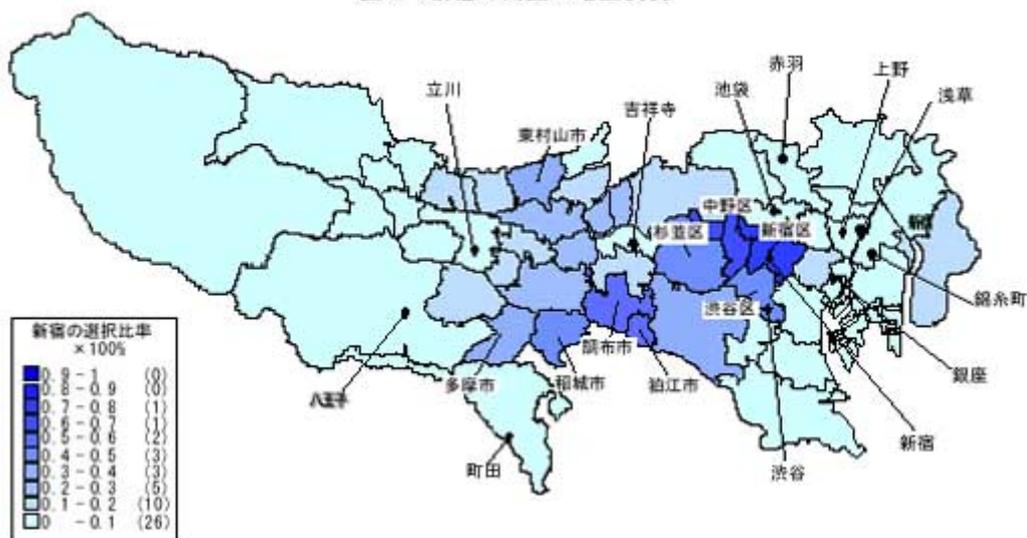
消費者世帯調査サンプル全体をプールすると 19.3%が、ふだん最も頻繁に利用する繁華街として「新宿」を回答する。「池袋」(11.8%)、「銀座」(7.7%)、「渋谷」(7.5%)が新宿に続いて回答割合の高い繁華街としてあげられる。多摩地域では「吉祥寺」が 7.5%で最高の回答割合となる。

図 1 - 東京都民がふだん最も頻繁に利用する繁華街



繁華街「新宿」の影響は大きく、商圈は広く多摩地域にまで広がる。図2は新宿の商圈を地図で表現したもの。色の濃いエリアが新宿の選択比率が高いことを表す。調布市、狛江市では、「新宿」の選択比率が、それぞれ53.8%、57.8%と50%を超える。東村山市(33.8%)、多摩市(30.0%)、稲城市(41.9%)なども新宿の選択比率が30~40%と高く、繁華街「新宿」の影響が大きい地域。

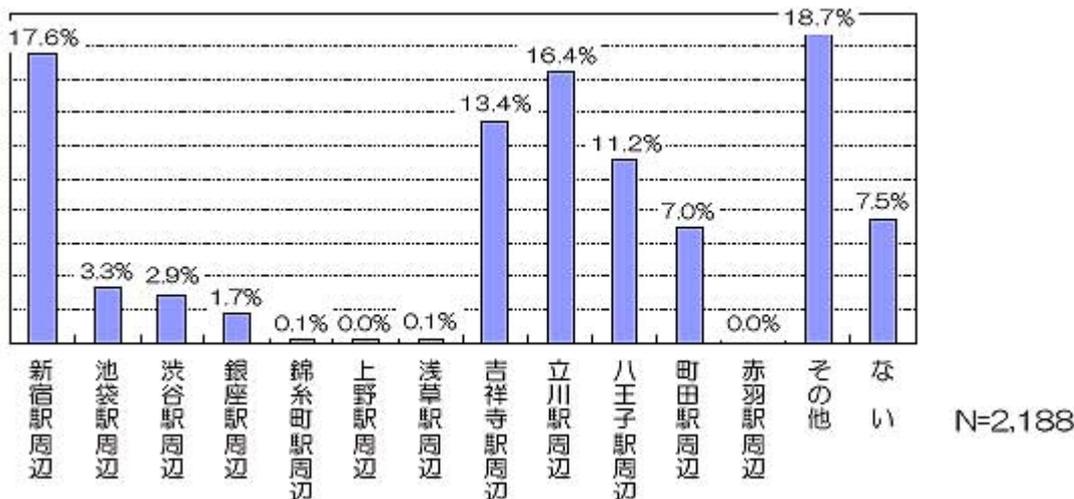
図2 -新宿の商圈の地図表現



多摩地域では「立川」「吉祥寺」など地元の繁華街も支持を獲得

消費者世帯調査において、多摩地域に住んでいる回答者(2,188票)だけに限って見ると、「新宿」は、最も利用する繁華街として、最高の17.6%を占め、影響は大きい。しかし、「立川」(16.4%)、「吉祥寺」(13.4%)、「八王子」(11.2%)、「町田」(7.0%)と地元多摩地域の繁華街の選択比率も高まり、支持を獲得している様子がわかる。

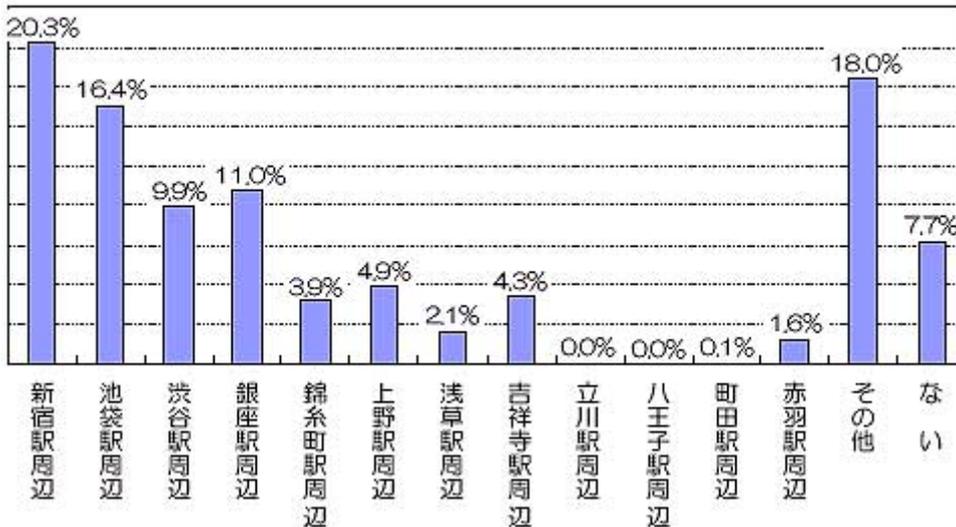
図3-多摩部の消費者が1人1人最も頻りに利用する繁華街



「新宿」「渋谷」「池袋」「銀座」の4強が区部を東西南北にシェア

消費者世帯調査において、区部に住んでいる回答者(4,077票)だけに限ってみると、「新宿」(20.3%)、「池袋」(16.4%)、「渋谷」(9.9%)、「銀座」(11.0%)と4つの繁華街がそれぞれ近隣のエリアを商圈とする4つ巴の状況が明らかに。区部北では「池袋」、東では「銀座」、南では「渋谷」が、西では「新宿」の選択比率が高い。

図4-区部の消費者がふだん最も頻繁に利用する繁華街



好イメージ繁華街、「銀座」

消費者世帯調査では、繁華街に関する13項目(1)来街のしやすさ、交通の便利さ、2)街のファッション感覚、流行感覚、3)街の親しみやすさ、4)街のものめずらしさ、新奇性、5)買物施設の充実度、6)娯楽施設の充実度、7)飲食施設の充実度、8)自宅からの近さ、9)一ヶ所で買物がすむ便利さ、10)商品を買いまわる楽しさ、11)色々な商品の品揃え、12)街の安全性、安心感、13)街のにぎやかさ)について、そのイメージの“良し悪し”を尋ねた。その結果、ほとんどのイメージ項目で評価が高かったのは「銀座」。銀座は、とくに「流行性」「買い回りの楽しさ」「安全性」「街の賑わい」などのイメージについての評価が抜群に良好。

図5—街のファッション感覚・流行感覚のイメージ評価

5段階評価（最低-2点、最高2点）

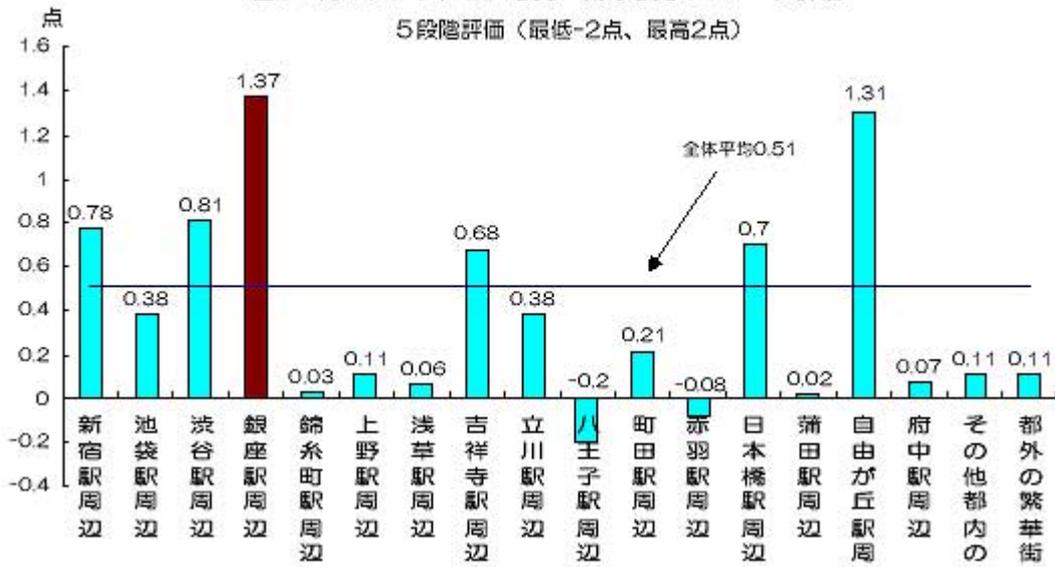


図6—商品を買回る楽しさのイメージ評価

5段階評価（最低-2点、最高2点）

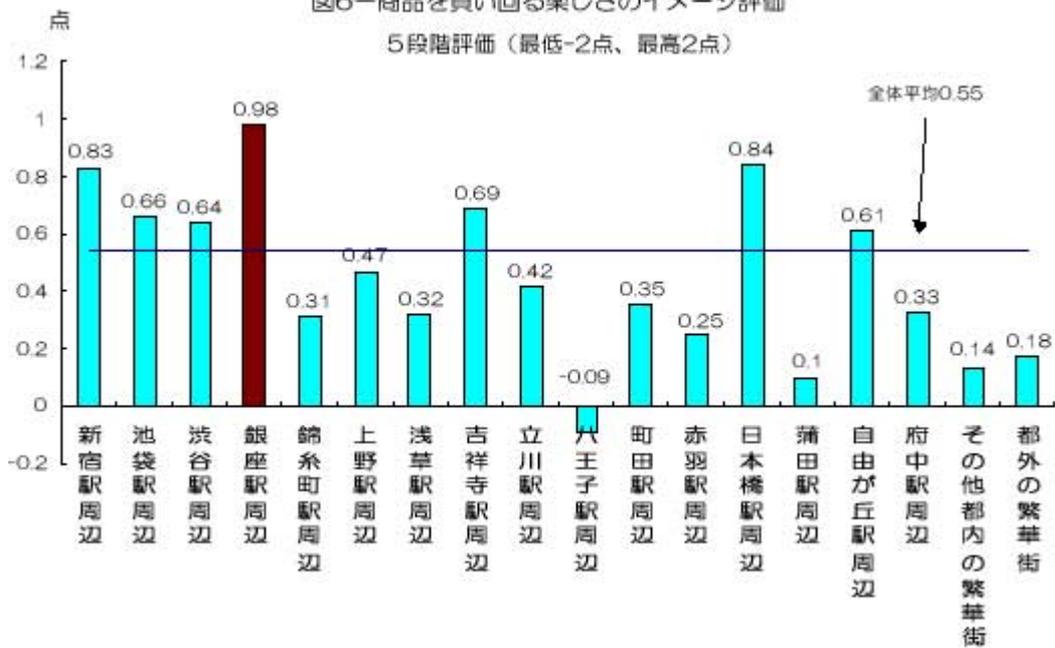


図7 一街の安全性・安心感のイメージ評価
5段階評価（最低-2点、最高2点）

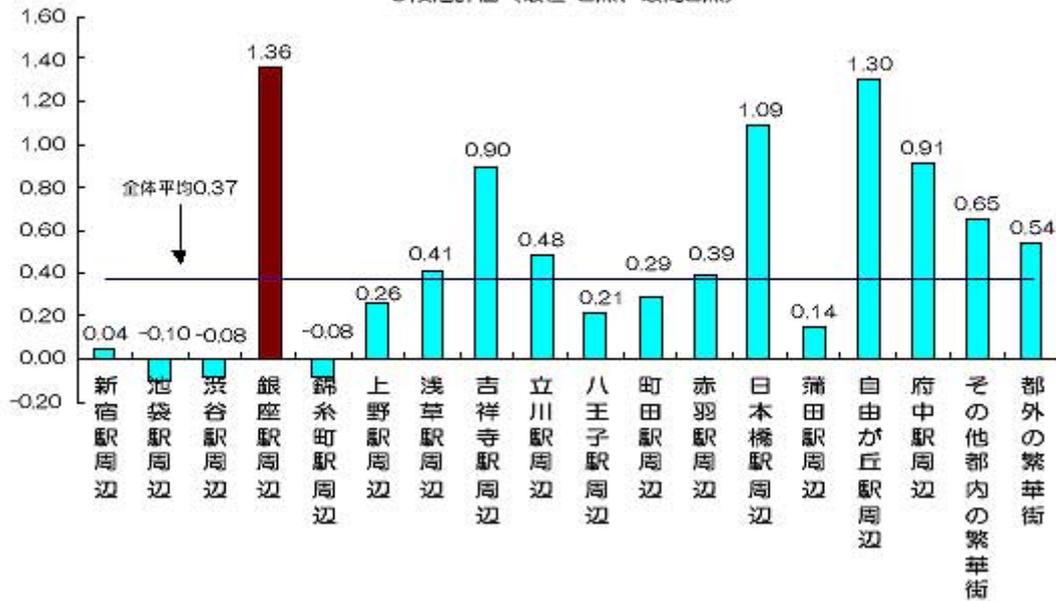
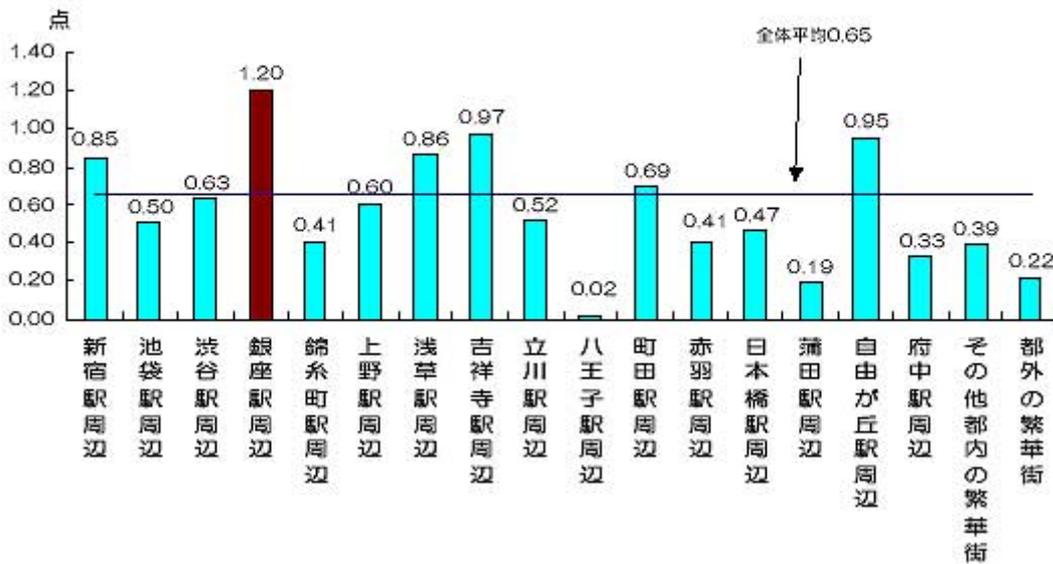


図8 一街の賑わいのイメージ評価
5段階評価（最低-2点、最高2点）



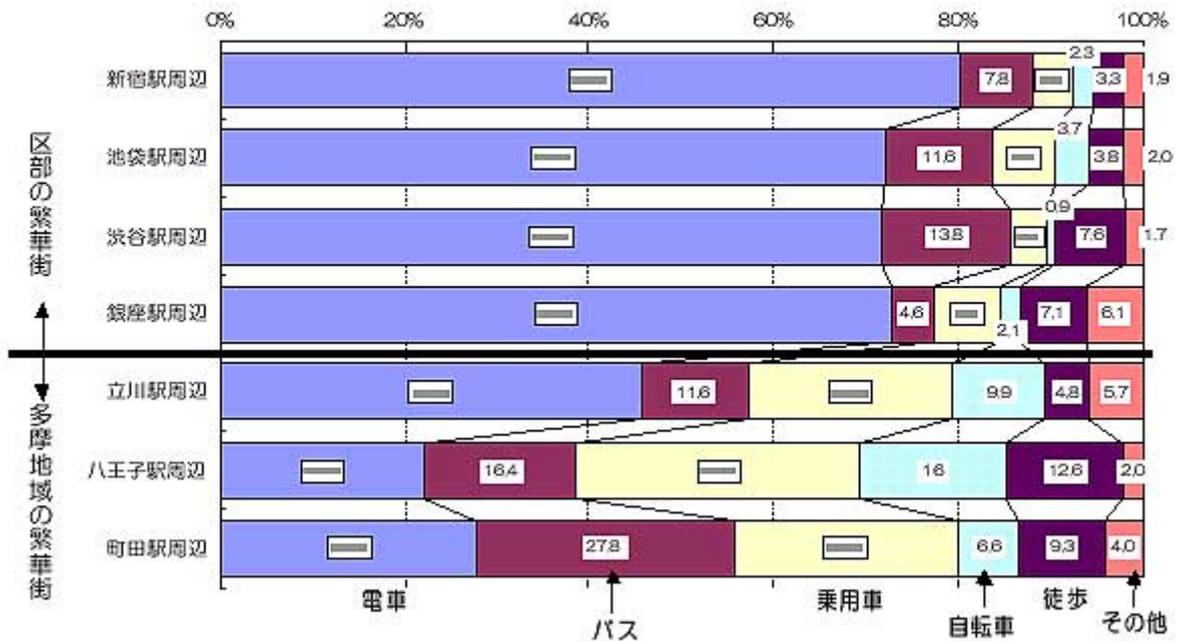
「電車」アクセス、新宿、渋谷、池袋、銀座等の繁華街では7割超

消費者世帯調査では、繁華街へのアクセス手段を尋ねている。繁華街へのアクセス手段は、圧倒的に「電車」利用が多く、全体の53.8%を占める。区部の大きな繁華街「新宿」「銀座」「渋谷」「池袋」では、電車でのアクセスは軒並み70%を超える。新宿に至っては80.3%が電車アクセスしているという結果。一方、「新宿」「銀座」「渋谷」「池袋」など大きな繁華街では、乗用車でのアクセスは5%前後とごくわずかにとどまる。

また、「立川」「八王子」「町田」などの多摩地域の繁華街では、乗用車でのアクセスが20強～30%と他の繁華街と比べて高い割合を占めるのが特徴。

次の図9は、区部の大きな繁華街4つと多摩地域の3つの繁華街を抜き出して、繁華街へのアクセス手段の違いをわかりやすく図に示したものの。

図9—繁華街へのアクセス手段



渋谷センター街入口の通行量、12時間で11万人強

通行量調査において、今回の調査地点中で最も歩行者通行量が多かったのは、渋谷の「センター街入口」。10時から22時までの12時間に平日で113,568人が通行している。同地点は、休日でも11万2千人の通行量となる。11万3千人強は、東久留米市の総人口に匹敵する。

繁華街内での最高通行量記録地点についてみると、「新宿」では休日の紀伊国屋書店前の歩道が約8万3千人ともっとも多く、「池袋」では平日の東口グリーン大通りのビックカメラ前で約8万人、「銀座」では、休日の有楽町マリオン前で約5万5千人となる。

【本調査について】

- ・ 本調査以降、同様の調査は行っていません。
- ・ 本調査は、当時東京都労働経済局商工指導所が実施したのですが、現在商工指導所は廃止されています。
- ・ 報告書の配布、販売はありません。詳細についてはお問い合わせください。

【問い合わせ先】

東京都産業労働局商工部調整課調査分析係 電話03-5320-4635